

平成27年度(公社)福岡県建築士会地域貢献活動報告

■麻生建築&デザイン専門学校建築工学科環境デザインゼミ

代表者：専任教員 戸田都生男 一級建築士・博士(学術)  
 団体所在地：〒812-0016 福岡市博多区博多駅前 1-11-13  
 ☎092-415-2292

E-mail：tsukio.toda@gmail.com toda@iot.ac.jp

URL：http://www.asojuku.ac.jp/act/

会員数(ゼミ学生及び関係教員数)：6名(学生5,教員1名)

設立年月日：平成26年4月15日

テーマ 木の空間が博多駅前通り周辺の「賑わい」に及ぼす影響に関する研究

□ 活動の目的及び契機

前年度実施した博多駅前周辺の木の空間調査の結果、木を活用している建築は寺社建築に限らず、主に居酒屋や飲食店の外観に多いことがわかった。これらは特に日常的に多くの人々が通行する駅前通りであり、「賑わい」が期待できる場所である。そこで、『木や緑のある空間は博多駅前周辺の「賑わい」に貢献している』という仮説の実証を意図した調査研究を行う。本研究の目的は主に人を観察することで、木や緑のある空間が博多駅前通り周辺の「賑わい」に及ぼす影響について考察することである。

□ 主な調査・活動内容

主に、①木の外部空間：木製ベンチと植栽(①-1)、樹脂製ベンチと植栽(①-2)、それぞれに着座した人数、性別、年代、行為、滞在時間等について行動観察と冬季の気候を考慮して気象庁のデータを参照した。また②木の内部空間について参与観察と感想文の内容を把握した。

1) 調査の方法

①-1 2016年2月10日(水)15時50分~16時35分の45分間に博多駅前広場の木製ベンチA~D4台(図1)を対象に調査員4名で行動観察を行った。円形に配された緑の植栽に沿って各木製ベンチがある。敷地内にはケヤキがあ

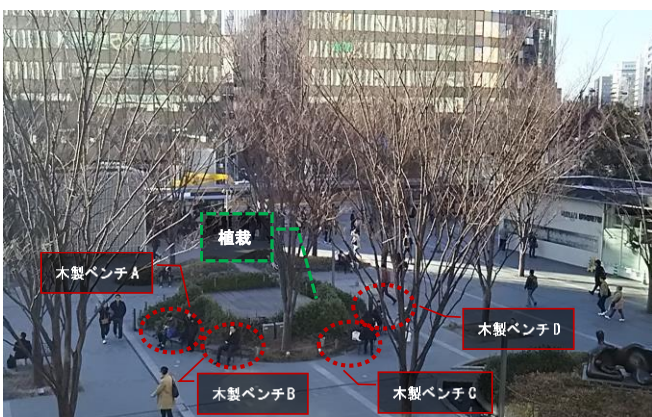


図1：博多駅前広場の木製ベンチ



写真1：木製ベンチ

るが冬季のため葉はみられない(図1)。木製ベンチは、二人掛けで主に座面が木製で、脚、背もたれ、肘掛はスチール製である(写真1)。

①-2 2016年2月24日(木)14時30分~15時15

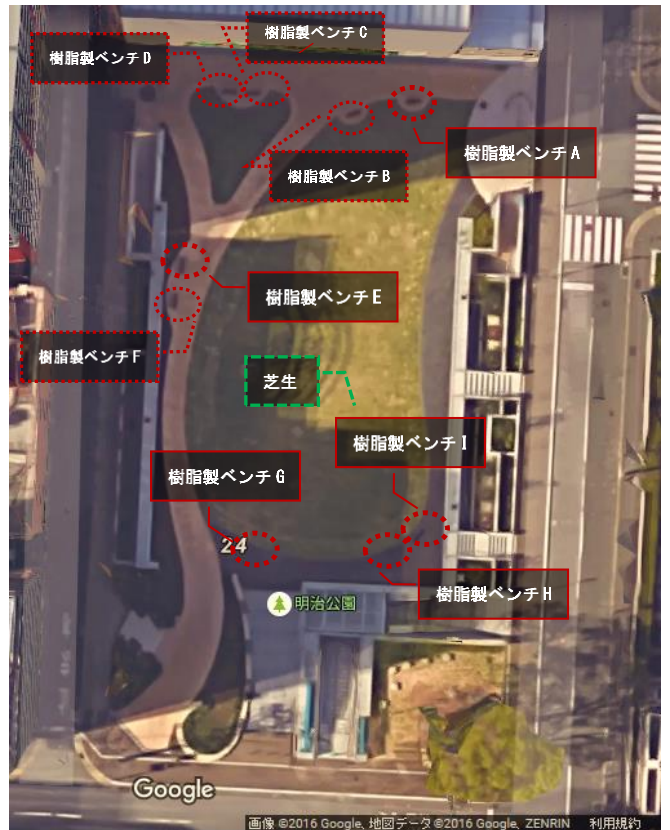


図2：明治公園芝生広場の樹脂製ベンチ



写真2：樹脂製ベンチ

分の45分間に博多駅前通り付近の明治公園芝生広場にある樹脂製ベンチA~I計9台(図2)を対象に調査員6名で行動観察を行った。芝生は冬季のため新緑ではないが、敷地内に緑の植栽や樹木がある。樹脂製ベンチは、二人掛けで主に座面と背もたれが樹脂製で、脚、肘掛はスチール製である(写真2)。

② 2015年9月17日(木)、19日(土)、20日(日)の3日間、博多まちづくり推進協議会と学生らが協力して博多駅前通りの空きテナントを木製パレットで家具や壁等をリノベーションして、カフェや展示場(以下、リノベーションカフェ)として2015年10月1日~31日までの1ヶ月間開放した。主に作業や展示等の催しについて参与観察を行った。

2) 調査の結果及び考察

①-1 博多駅前広場(図1)：A, B, C, D計4台の木製ベンチに着座した人の平均滞在時間と延べ人数を表1に示す。比較的、平均滞在時間が長い場合は、滞在延べ人数が少ない(木製ベンチA, D)。逆に平均滞在時間が短い場合

表1：木製ベンチに着座した平均滞在時間及び延べ人数

	平均滞在時間(分)	滞在延べ人数(名)		
		男性	女性	計
木製ベンチA	10.5	1	4	5
木製ベンチB	4.2	6	3	9
木製ベンチC	8.2	2	10	12
木製ベンチD	14.3	3	3	6
平均値・合計	9.3	12	20	32

は、滞在延べ人数が多かった（木製ベンチ B, C）。平均滞在時間の最も長い D（14.3 分）と次いで長い A（10.5 分）の木製ベンチに着座した人の主な行為は「待ち合わせ」「スマートフォンを触る」であった。また最も多くの人が着座した C（12 名）の主な行為は「2 人で話す」「スマートフォンを触る」であった。これらより、「スマートフォンを触る」行為は平均滞在時間と滞在延べ人数、両者に対して比較的影響が少ないと考えられる。平均滞在時間の長い場合は「待ち合わせ」等の目的が明確で、滞在延べ人数が多い場合は短時間であっても「2 人で話す」等、お互いが木製ベンチに着座することや多数でベンチを囲むことで談笑しやすい雰囲気がもたらされ、賑わいに繋がることが推察される。

なお、当日の調査時間帯の気象データを表 2 に示す。降水量はなく気温も 11℃を超え、風速も比較的穏やかであり、ベンチに着座するには不快な状況ではなかったと思われる。

表 2：福岡県博多の 2016 年 2 月 10 日（水）気象データ  
※気象庁気象データを基に筆者作成

時分	降水量 (mm)	気温 (°C)	風向・風速(m/s)			
			平均	風向	最大瞬間	風向
15:50	0.0	11.7	4.0	北北西	6.2	北北西
16:00	0.0	11.6	4.1	北北西	6.2	北北西
16:10	0.0	11.9	4.3	北北西	5.7	北北西
16:20	0.0	11.7	4.1	北北西	5.7	北北西
16:30	0.0	11.4	3.7	北北西	5.1	北
16:40	0.0	11.1	3.7	北北西	5.1	北北西

①-2 明治公園芝生広場（図 2）：A～I 計 9 つの樹脂製ベンチのうち着座のあった A, E, G, H, I 計 5 つの樹脂製ベンチでの平均滞在時間と延べ人数を表 3 に示す。博多駅前広場の木製ベンチでみられたように、平均滞在時間が長

表 3：樹脂製ベンチに着座した平均滞在時間及び延べ人数

	平均滞在時間(分)	滞在延べ人数(名)		
		男性	女性	計
樹脂製ベンチA	5.5	1	1	2
樹脂製ベンチE	5.0	1	0	1
樹脂製ベンチG	7.0	4	4	8
樹脂製ベンチH	32.0	2	0	2
樹脂製ベンチI	1.0	1	0	1
平均値・合計	10.1	9	5	14

い場合は、滞在延べ人数が少ない、逆に平均滞在時間が短い場合は滞在延べ人数が多いという負の相関関係は、ほぼみられなかった。平均滞在時間の最も長い H（32.0 分）の樹脂製ベンチに着座した人の主な行為は、20 歳代と思われる男性 2 名が芝生側を向いて着座し、そのうち 1 名が「ギターを弾く」、もう 1 名が音色にのって「歌う」であった。また、最も多くの人が滞在した G（8 名）の主な行為は芝生側を向いて着座し、お弁当等を「食べる」と「キャッチボールを見る」であった。後者は 6 名（女性 2 名、男性 4 名）が同時に芝生広場に訪れ、女性 1 名のみが樹脂製ベンチに着座し、男性 4 名は着座することなくキャッチボールを行った。キャッチボールをするという目的が明確なため、また多数の場合は二人掛けベンチではそもそも着座する意思も少ないと考えられ、「キャッチボールを見る」ために着座すること以外にもベンチの周辺に滞在させる効果等、周囲への影響が考えられる。つまり、ベンチに着座するだけでなく、その周辺で多数の仲間と遊ぶことが滞在を誘発さ

せ、賑わいに繋がることが推察される。

なお、当日の調査時間帯の気象データを表 4 に示す。降水量はなかったが気温は 10℃を下回り、比較的風速が強く、ベンチに着座するには快適な状況ではなかったと思われる。

表 4：福岡県博多の 2016 年 2 月 24 日（木）気象データ  
※気象庁気象データを基に筆者作成

時分	降水量 (mm)	気温 (°C)	風向・風速(m/s)			
			平均	風向	最大瞬間	風向
14:30	0.0	8.3	5.1	西北西	9.8	西
14:40	0.0	8.6	4.7	西北西	9.8	西北西
14:50	0.0	8.5	5.6	西北西	9.3	北西
15:00	0.0	9.4	6.6	北西	10.8	北西
15:10	0.0	8.4	7.3	北西	10.3	北西
15:20	0.0	8.8	6.6	西北西	10.8	西北西

以上の各所の木製ベンチと樹脂製ベンチの平均滞在時間・滞在延べ人数・行為等を比較した結果、ベンチが木製か樹脂製の違いによる影響は、本調査では断定できないが、ベンチに着座する、あるいはベンチの周囲に人が滞在するために、緑の植栽や樹木が様々な人の行為を誘発する契機となることは否めない。また、何らかの行為の目的が明確な場合は、降水量以外の気象条件の影響は少ないと推察される。したがって、さらなる検証が必要ではあるが、緑の植栽のある空間が賑わいに影響を与えている可能性があると考えられる。ただし、季節や天候、時間、場所、通行量等の影響を含めた考察は検討の予知がある。

②リノベーションカフェ：1 ヶ月の期間中に延べ 3,000 名程の来場者があった。木製パレットによるリノベーションの作業参加者の主な感想として「初対面の方と力を合わせての作業が回数をこなすうちにどんどん息の合ったものになる感覚もうれしかった」、「みなさんと仲良く作業ができて楽しかった」、「いろいろな人と協力しあいながらできてよかった」等であった。作業に参加した学生の中でその後、リノベーションカフェでの催しにも参加する者も見られ、自らが製作に携わった場がどのように使用されているか等の関心を持ったことが推察される。これらのことから、多くの人が加工しやすい木製物を使った作業や木の空間において、様々な人との協力や関係が賑わいに繋がる可能性があると考えられる。

## □ 成果と課題

以上より、『木や緑のある空間は博多駅前周辺の「賑わい」に貢献している』という仮説は概ね実証された。主な成果と課題を以下に示す。

- ・人が緑や木のある空間のベンチやその周囲に「留まる」こと及び木を使ったものづくりやその空間が博多駅前通り周辺の「賑わい」に繋がる可能性を示唆した。
- ・ベンチの種類等の違いによる賑わいの影響に関して、さらなる観察やアンケート調査等での検証が望まれる。

**注** 本調査研究における「賑わい」は、敷地内に緑や植栽のあるベンチ（木製・樹脂製）に人が着座することやその周辺に留まることに着目している。

**謝辞** 本調査研究の申請内容に助言頂いた福岡県建築士会まちづくり委員会及び調査に関する活動の場を与えて頂いた博多まちづくり推進協議会関係者皆様、調査に協力頂いた建築&デザイン専門学校 2015 年度建築工学科 1 年環境デザインゼミメンバーと稲吉大樹先生に感謝申し上げます。

(公社)福岡県建築士会 まちづくり委員会